



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙ほか. 天界 1921, 1(8)

ISSUE DATE:

1921-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159586>

RIGHT:

大正十年  
六月號

天

界

第一卷

第八號



內容

獵犬座渦狀星雲 眞寫

緯度觀測所……………一二一

技師理學士 上田 穰

肉眼に見ゆる星の話(二)……………一二五

伏見 吉田源治郎

日月の見掛けの大きさ……………一二九

理學士 神田 茂

天體運動のレコード破リ……………一三二  
遠距離間の經度測定……………一三三  
本邦天文學界の將來多事……………一三三  
天體の輻射壓……………一三四  
カメンスキ―氏の情報……………一三四

質疑二件……………一三五

東行記(山本)……………一三二

同好會報……………一三六

特別附錄 天文語彙 (其七)

六月の天象

太陽 六日午後三時半、芒種節。二十二日午前八時半、双子座から巨蟹宮に入る夏至。

月 六日午後三時 新月

水星 双子座で始終よく見ゆる。太陽より一時間以上遅れてゐるから、七日は金星に近く、又十五日には星の近くに。十一日最大離隔。十四日金星より暁の明星で、朝起をすゝめる。牡羊座から牡牛座へ、淋しい天の獨り旅

金星 双子座を順行中。殆ど太陽と同時に出現するので觀望不能。二十九日合。

木星 獅子座で順行の歩調が日立つて来る。地球からの距離も増し、光は幾らか衰へ始める。

土星 丁度、日没に南中。獅子座でやはり順行。木星より遅れること半時。

天王星 夜半東から出現。水瓶座の星の南西側に停滯。十五日留。

海王星 依然として蟹座。星の北々東を順行。光度八等。一時の望遠鏡を要す。

流星群 二十七日前後北斗の尾より出現

## 急 告

世界中の天文學者が待ちに待ったキンネケ彗星は遂に去る四月十一日米國エルケス天文臺のバーナード教授によつて發見されました。併し星の光度が弱くて今暫くは大望遠鏡でなければ見えないさうです。しかし此れにもまして一般の注意を惹くのは英國流星學者デニング (W. F. Denning) 氏の説であります。氏の説によれば右のキンネケ彗星と密接の關係ある流星群が来る六月二十六日から同二十八日まで間に北斗七星のあたりから盛んに飛ぶだらうと言ふのです。之れはデニング氏が一九一六年六月に觀測した經驗から言つてゐるので吾が京都天文臺でも中村要氏を始め熱心の人々は頗る興味を以て其の日を待つてゐます。(此の事件を誤解して、世間には六月の末に地球と彗星とが衝突すると思つて騒いでゐます。去る五月十一日の大阪朝日新聞を御覽なさい)

吾が同好會員諸氏は皆此の流星群を御覽下さい。若し熱心を以つて流星を觀測したい方があるならば簡單な星圖や觀測用紙を數枚差し上げますから、郵券貳錢を以つて申込んで下さい。觀測には、一々の流星の出現と消失の方位を星圖上に書き、其の時刻月日、流星の光度、尾の長さ、色等を觀測して、本會本部中村要氏あてに送つて下されば大に喜びます

天文同好會

---

Contents of THE HEAVENS No.8.—edited by I. Yamamoto.

---

Spiral Nebula in Canes Venatici (Frontispiece)——Y. Ueda,  
Mizusawa Latitude Observatory——G. Yoshida, Stories of  
Naked-Eye Stars——S. Kanda, Apparent Sizes of the Sun  
and the Moon——New Record of the Heavenly Motion——  
—Longitude Determination by the Wireless Telegraphy——  
Future of Astronomy in Japan——Radiation Pressure of the  
Stars——Dr. Kamensky——Queries——Trip for East  
(J.Y.)——Reports——Notes.

APPENDIX: T. Ebi, Astronomical Lexicon (7).

---

Published by the Society of the Astronomical Friends,  
Kyoto University Observatory, Japan.

雲 星 狀 渦 座 犬 獵



Spiral Nebula (M51) in Canes Venatici

## 編輯室より

本號の寄稿家上田理學士は大正六年から同八年まで吾が京都大學天文臺に在職せられた少壯學者で、目下水澤緯度觀測所の技師であります。國觀測所の記事を書いて下さるには最も適當な方であります。勿論同氏は同好會員です▲神田理學士の文は頗る卑近な問題を捕へて、しかもこゝに斬新な材料を以つて研究を試みられたるもの、再讀三讀すべきものでありませう。吾が會員諸氏の中にも教育家が多くありますが、神田氏の如き研究を試みられんことを望みます。▲多數讀者の要求もありますから、次の號あたりから、天體の實際觀測法に關した記事を載せることに致しませう▲五月號は「展覽會記念號」としました。特別號で、展覽會の記事をのせるため、原稿の一切を遅らせましたので、發行期日も従つて少々後れましたことを御詫びします▲又七月號は豫告の如く「佐々木記念號」に致します。

## 事務室にて

大阪の天文展覽會も大成功を以つて、五月十一日に終了した。此れを好機として大阪附近に天文學の宣傳の行はれた効果は争はれない。吾が同好會の會員も大阪方面に激増した。

五月から會員中村要、海老恒治、豐原義一三氏が事務の仕事を手傳つて下さるのは有難い。殊に中村君は吾が京大天文臺の職員として、今後は觀測や研究に従事せらるゝ苦。同君の如き熱心銳眼の士が加はつたことは頗る心強い。

大正十年五月二十四日  
大正十年五月二十五日

印刷  
發行  
(定價金貳拾五錢  
郵稅金五厘)

京都帝國大學天文臺内

編輯兼  
發行者

天文同好會

振替貯金大阪五六七六五番

右代表者

山本一清

京都市夷川川端東入下ル

印刷者

佐藤靜

京都市夷川川端東入下ル

印刷所

弘文堂印刷所

賣捌所

丸善株式會社

東京、京都、大坂、福岡、仙臺